

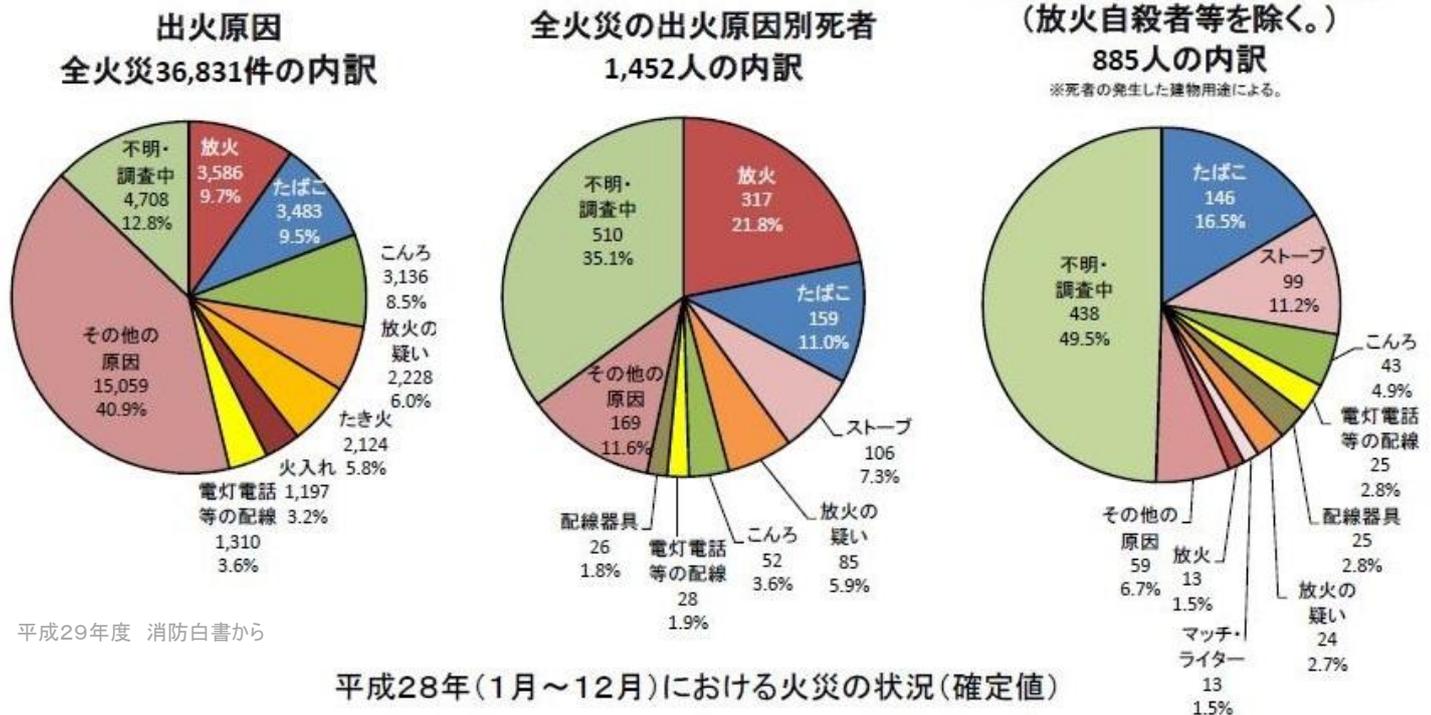
タバコは火災の原因となります。しかし、身近で火事を経験することはあまりありません。ニュースや新聞で目にすることはあっても、火事の現場に遭遇することはめったにない事だと思います。では、いったい火事は全国でどれくらい発生しているのでしょうか。

そこで、下のグラフを見てください。一昨年(平成28年)の火災状況をまとめたものですが、全国の一年間で発生した火災は36,831件でした。その内訳を示した左端の円グラフを良く見てください。一番多いのは“放火”なのですが、次に多いのが“たばこ”で3,483件も発生しています。めったに遭遇しない火災ですが、全国的にはこんなに発生しており、そのうちの10%近くがタバコの火が原因なのです。さらに、真ん中のグラフを見てください。これらの火災で亡くなった1,452人のうちタバコが原因の火災で159人(11%)もの人が亡くなっています。そして、右端のグラフには、放火を除けばタバコの火災が一番多いことが示されています。

住宅火災の出火原因別死者数
(放火自殺者等を除く。)

885人の内訳

※死者の発生した建物用途による。



平成29年度 消防白書から

平成28年(1月～12月)における火災の状況(確定値)

このデータをみれば、やっぱりタバコの火による災害は無視できない事を実感してもらえたと思います。タバコの火の始末さえ、確実にしておけば防ぐことができた火災が3,483件もあって、159人の命は失わずに済んだはずでした。

タバコさえ吸っていなければ、家も命も失わずに済んだはずです。

産業デザイン科 奥田 恭久